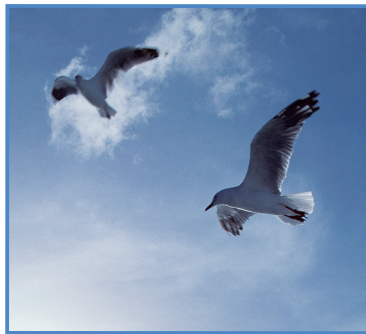




平成20年度 CSI委託事業(コンテンツ系)で68大学21プロジェクトを支援

- 2つの目標:機関リポジトリの全国的な展開／先端的な研究開発
- 2つの領域:領域1(機関リポジトリの構築と運用)／領域2(先端的な研究・開発)

第1期
平成17年度～平成19年度

- 平成17年度:19大学
- 平成18年度:57大学、22プロジェクト
- 平成19年度:70大学、14プロジェクト

第2期
平成20年度～平成21年度

- 更なる全国的な展開／持続性の重視
- 機関リポジトリでの流通が期待される重点コンテンツを指定

CSI: Cyber Science Infrastructure(最先端学術情報基盤) <http://csi.nii.ac.jp/>

■平成20年度CSI委託事業(コンテンツ系) 領域2 プロジェクト一覧

テーマ	プロジェクト名	代表機関	分担機関	連携機関
発信力強化のための技術開発	学術機関リポジトリをプラットフォームとする電子出版システムの開発	名古屋大学		九州大学
	リポジトリと電子出版の連携モデルを確立するための実験開発	早稲田大学		京都大学 広島大学 長崎大学 佐賀大学
	機関リポジトリ上の情報資源の発見及びアクセス性の向上のための調査研究開発	北海道大学	九州大学	筑波大学 千葉大学 京都大学 名古屋大学 大阪大学
	学術機関リポジトリのためのシステム連携用ツールの開発	名古屋大学		岐阜大学
	XooNIpsを基盤とした新しいリポジトリシステムへの取組	慶應義塾大学	別府大学	近畿大学 札幌医科大学
	研究者情報システム連携プログラム	金沢大学		早稲田大学 九州大学 信州大学 千葉大学 長崎大学 帯広畜産大学 静岡大学 北海道大学 大阪大学
	つくばサイエンスリポジトリ(TSR:Tsukuba Science Repository)におけるコンテンツの構造化と利用価値の向上	筑波大学		筑波技術大学
複数のリポジトリの連携	双方向型医学系サブジェクトリポジトリ技術基盤の形成	札幌医科大学		
	遺跡資料リポジトリの構築:中国5県域から広域連携へ	島根大学	鳥取大学 岡山大学 広島大学 山口大学	
	共同リポジトリ:モデルの構築と普及	広島大学	岡山大学	広島工業大学 山形大学 埼玉大学 長崎国際大学 北海道大学 千葉大学 金沢大学 大阪大学
	教育系サブジェクトリポジトリとしての展開	東京学芸大学		
機関リポジトリの持続性の確保や価値の向上に関する研究	機関リポジトリコミュニティの活性化	北海道大学	千葉大学 金沢大学 大阪大学	小樽商科大学 筑波大学 早稲田大学 広島大学
	ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成	千葉大学	大阪大学 広島大学 島根大学	香川大学
	オープン・アクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト(SCPJプロジェクト2)	筑波大学		北海道大学 千葉大学 東京工業大学 金沢大学 大阪大学 神戸大学
	持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造	九州大学		佐賀大学 長崎大学 熊本大学 宮崎大学 別府大学
	機関リポジトリ評価のための基盤構築	千葉大学		東北大学 金沢大学 北海道大学 大阪大学
	機関リポジトリ推進のための視認度評価分析システムの開発	信州大学		埼玉大学 慶應義塾大学
	学術情報資源共有のための図書館間文献デリバリーサービスを機関リポジトリ構築によって代替するための教員・図書館連携方式の開発	小樽商科大学		北海道大学 千葉大学 金沢大学 大阪大学
	研究者コミュニティが機関リポジトリに深く関わるための入出力活性化	九州大学	佐賀大学	千葉大学
	機関リポジトリへの登録が学術文献流通に対して及ぼす効果についての定量的解析のための文献蓄積及びデータ整理	北海道大学	京都大学	千葉大学 金沢大学 大阪大学
eサイエンスと機関リポジトリの連携の可能性についての調査・研究	e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験	千葉大学		金沢大学 九州大学 北海道大学 大阪大学

学術機関リポジトリは学術コミュニケーションの新しい地平を切り拓く。

- 大学が生み出す知的成果を広く社会と共有することが、大学の社会的責任として強く求められています。「学術機関リポジトリ(IR)」は、大学の教育・研究・社会貢献という使命を果たすうえで、重要な役割を担っています。
- 国立情報学研究所は、大学等の学術研究機関との連携協力により、次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の一環として、IRの構築・連携を支援しています。

学術機関リポジトリポータル登録コンテンツ数

54万件以上※2008年10月現在

日本の学術機関リポジトリの数

世界第4位※2008年10月現在

日本の学術機関リポジトリの数

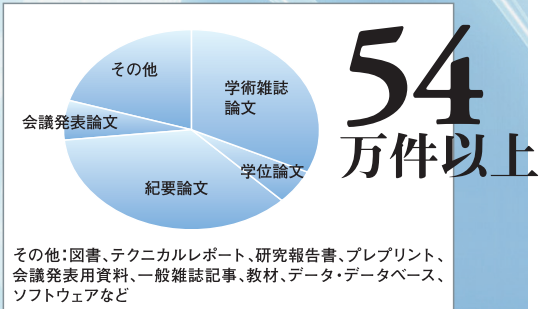
3年間で80以上※2008年10月現在

大学の研究・教育成果発信のさらなる強化に向けて、 学術機関リポジトリの構築連携を支援します。

大学の研究・教育活動の成果である学術情報の収集、組織化、保存及び
発信のための仕組みとして、「学術機関リポジトリ (IR)」の存在価値が高まっています。
国立情報学研究所は、学術情報の情報発信拠点の新たなモデルとして、
日本のIRの構築を支援し、付加価値サービスとして発信します。

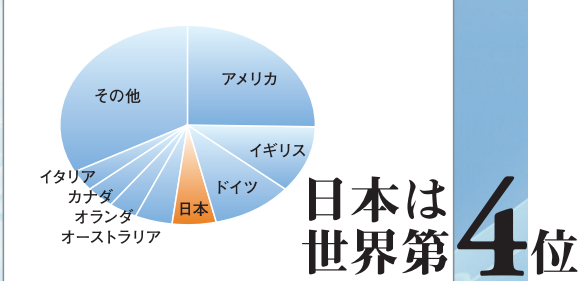
※ここで言う大学には、その他の研究機関や高等教育機関を含みます。

IRポータル登録コンテンツ数



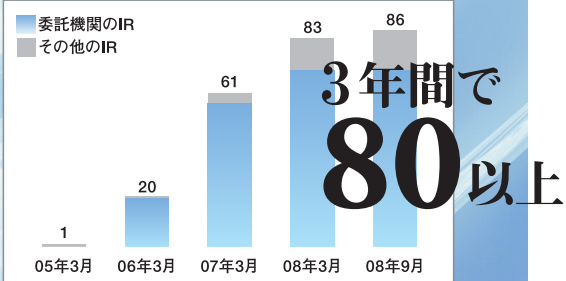
※NII調べ (2008年10月現在)

世界のIR数: 1250以上



※OpenDOAR調べ (2008年10月1日現在)
<http://www.opendoar.org/>

日本のIR数



※試験運用を含む
※NII調べ (2008年10月現在)

IRP 学術機関リポジトリ 構築連携支援事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/>

【学術機関リポジトリの定義】
大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス。
※クリフォード・リンチ (2003)



NII学術機関リポジトリ 構築連携の 3つのサポート

1 コンテンツ構築

- 学協会誌論文の電子化とコンテンツ提供
- IRに対する学会の著作権ポリシーの確認
- 紀要発信支援とIRへのコンテンツ提供
- SPARC Japan^{※1}パートナー誌ヘリポジトリフレンドリーポリシー推奨

2 システム連携

- メタデータフォーマット "junii2^{※2}" の提供
- 各IRのメタデータを OAI-PMH^{※3} でハーベストし集約
- 国内学術機関リポジトリポータル "JAIRO" の提供

3 コミュニティ形成

- 報告交流会、研修、ワークショップ、シンポジウムの実施

※1 SPARC Japan:
日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外への研究成果発信の一層の普及を推進するNIIの事業です。

※2 junii2:
NIIが策定したIRのメタデータ・フォーマットで、国際標準メタデータ・フォーマットDC (ダブリンコア) に準拠しています。国内IRのデファクト・スタンダードです。

※3 OAI-PMH:
IR (データプロバイダ) のメタデータを電子論文対応検索エンジン (サービスプロバイダ) にハーベスト (自動取得) させるための国際標準プロトコルです。

利用者

学術コンテンツ発信

大学からの情報発信

連携

メタデータの提供

大学

研究者

学術機関リポジトリのメリット

【研究者にとって】
成果の効果的発信、研究インパクトの向上、
被引用機会の拡大

【大学にとって】
社会に対する説明責任、大学ブランド力の向上、
国際発信力の強化

【社会にとって】
情報格差の是正、コミュニティの活性化、
産学連携のシーズの発掘

【図書館にとって】
学術コミュニケーションへの寄与、
図書館サービスの高度化

協力

サービス・ツールの提供

学術コンテンツ形成

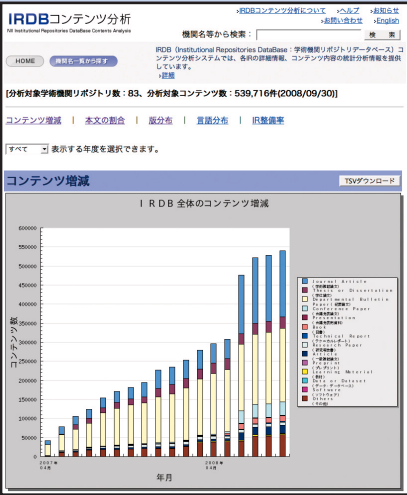
横断的検索機能の提供 (学術機関リポジトリポータル)



JAIRoは日本のIRに蓄積された学術情報 (学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等) を横断的に検索できるサービスです。(試験公開中)



IRDBコンテンツ分析
NII Institutional Repositories DataBase Contents Analysis
各IRの詳細情報やコンテンツ内容の統計分析情報を提供しています。



NIIが開発した簡単・便利なIR構築用のモジュールです。NetCommons (NII開発の次世代情報共有基盤システム) の上で動作します。



IR構築支援

IR構築